



日本中央競馬会
京都競馬場
建設設備課 課長
山畑 成さん

**お客様からも
厩舎の皆様からも
好評を得ています**

今回の整備で「JRA-UMA-CA」やQRコード入場などキャッシュレス化、ペーパーレス化に対応した最新の競馬場になりました。お客様のアンケートなどからも「観やすくなった」、「快適になった」とお褒めの言葉をいただいています。また、厩舎や馬場の整備でも厩舎関係者の皆様から「使いやすく、馬にも優しい競馬場になった」と好評を得ています。新設のスタンドはまだ余力というか使っていないスペースもあるので、それを活用したイベントなどで、お客様により楽しんでいただけるような施設にしていきたいと思っております。



地下水圧対策の地盤改良工は、薬液注入用の機械を全国から約100台集めて施工。工期の遅れを最小限に止めた。



ユニット化した基礎梁配筋をトラックで運び、クレーンで設置することで工期を短縮。



クレーンの設置台数を当初計画の8台から13台に増やし、クレーン設置期間を長くすることで工期短縮を図った。

◎京都競馬場整備工事(スタンド工区)概要

- 発注者：日本中央競馬会
- 設計者：安井建築設計事務所、JRAファンリテイーズ
- 施工者：大林組
- 工事期間：2020年2月～2024年3月
- 規模：【ゴールサイド改築】65,073.25m²(接続棟含む)
【ステーションサイド改修】52,490.90m²

木と鋼のハイブリッド構造の大庇は、フロア型システム吊り足場を用いて施工した。



株式会社大林組
京都競馬場工事事務所
統括所長
前田 嘉寛さん

**全員が
強い思いで工夫し
工事を完遂させた**

もともと短工期で大規模かつ複雑なスタンドの建て替えという難易度が高い工事で、それに加えて地盤改良工事やコロナ禍で資材が予定通り入らないなどの苦労もありました。それでも工期通りに工事を終えることができたのは、多くの方が楽しみにされている2023年4月の開催を遅らせるわけにはいかないという強い思いを、工事に携わる全員が共有しそれぞれが工夫して実践してきたからです。グラントオープンの日には発注者様のご厚意で用意いただいた席で協力会社の皆さんと一緒に観戦でき、とても感激しました。

工期短縮の実現に向け、工法や工程に様々な工夫を行った。基礎工事では空いている駐車場を利用して杭鉄筋の先行組み立て、基礎梁鉄筋を先組みユニット化して設置した。小梁や段床のプレキャスト化などと併せて、吊り足場などの仮設もいかに作業を効

「極短(ゴクタン)」を合言葉に

「極短(ゴクタン)」を合言葉に、本工事は延床面積7万㎡を超える旧スタンドを解体撤去し、ほぼ同規模の新スタンドを新築するとともに、延床面積約5万2千㎡のスタンドを改修する。これだけの規模でしかも複雑な構造の建築工事を、約2年間のレイス休止期間中に行う。また、宇治川と桂川に挟まれた場所にあるため、軟弱地盤と地下水圧への対策が不可欠だった。工期短縮と地下水工事の水圧対策という難題をいかに克服するかが、工事完遂への大きな鍵となった。

工期短縮と地下水圧が鍵に



(上)ゴールサイド4階の指定席は、全席ガラス張りの屋内席。間隔を広く取られた座席でゆったりとレース観戦ができる。(下)スタンド各フロアから馬の歩様が見やすい楕円形パドック。2階にはパドックを360度取り囲む「パドックリング」を新設。

率化できるかの観点から徹底的に見直した。「現場方針に掲げた『極短』は単なる時短ではなく、すべての業務を見直して生産性を高め、真の働き方改革を実践することです。打ち合わせ時間の短縮、素早い判断などで二人が1日に5分の短縮を心掛けるだけでも、1500人分となれば大幅な時間短縮につながります」(前田嘉寛統括所長)。

想定以上の地下水圧に対応

地下水工事では圧力を受けている地下水(被圧水)が、想定した以上に高いことが事前調査で分かった。そのままでは地下水の水圧で掘削底面が浮き上がる現象「盤ぶくれ」が発生する恐れがあるため、安定した地盤に改良する工事を緊急で行った。これにより、柱を建てて梁を繋ぐ鉄骨建方(たてかた)の開始が計画よりも遅れることになったが、安全のために妥協せず、万全の対策を行った。

**開設100周年に向けて
夢と感動を届ける
施設に一新**

春の天皇賞や菊花賞が開催される京都競馬場は、2025年に開設100周年を迎える。その記念事業の一環として、「夢と感動を届ける日本を代表する娯楽・レクリエーション施設」をメインコンセプトにスタンドの改築のほか馬場改修、厩舎改築など施設全体の整備が行われた。

建て替えられた新スタンドは、間隔を広く取られた座席、パドックや投票所への移動のしやすさなどが特長で、パドックも従来の円形から馬の歩様が見やすい楕円形に変わり、パドックを360度取り囲む「パドックリング」が新設された。競馬ファンからは「ゆったりと快適に観戦できる」、「出走馬を間近で見られる」など好評を得ている。一日の過去最高入場者数14万3千人という京都競馬場は、これからも多くの人に夢と感動を届ける場となるだろう。



(左)京都競馬場は三冠馬が生まれる場所。歴代の三冠馬の馬像を並べた「三冠馬メモリアルロード」は新しい見どころになっている。



(右)「UMAJO SPOT」やキッズルームなど女性やファミリーに嬉しい施設も充実。

